

## 第35回

「地球温暖化」をはじめとする環境問題がますます身近になる一方で、世界の国々が賛同できる国際枠組みの構築は困難な状況にあります。

このような状況下で対策が急がれる中、国際社会はどのように取り組むべきなのでしょう。

CSRの最先端アメリカでの実体験をもとに日本企業向けのCSRコンサルティングを行うコーポレートシチズンシップ代表の雨宮氏から世界で行われている地球環境問題解決への取り組み等について、ご紹介いたします。

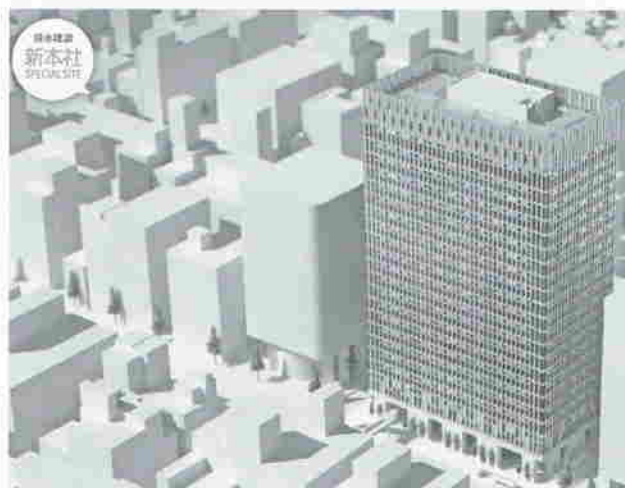
コーポレートシチズンシップ 代表取締役 雨宮 寛氏



## 世界で最も環境に優しいビル、突然変異の蝶、世界のガソリン価格ランキング

今回は、世界で注目されている日本に関するCSR関連の話題をいくつか記したいと思います。

まず、世界で最も環境に優しいビルについてです。CSRや建築関係のオンライン・ニュース等で広く紹介されている世界で最も環境に優しいビルがこの8月1日に東京にオープンしました。それは清水建設の本社ビル（東京都中央区）です。このビルはCO<sub>2</sub>排出を最小限に抑えるように設計されているそうです。ビルの運営で最も環境負荷の高いものはエアコンですが、最近のように猛暑が続く夏にはエアコンの使用が高くなり電力使用量が増え、結果的にCO<sub>2</sub>排出増となってしまいます。そこで、このビルは各階の天井部分に水道ホースのようなものを敷くことで室温を調整する放射熱空調を採用しています。二つ目は、2,000㎡規模の太陽光パネルを屋上や外壁に敷き詰めています。そして、各階の窓部分のブラインドが太陽の動きに合わせて動き、最も効率的に太陽の光を受けられるように調整されています。これにより、自然光が屋内に入るようになり、通常の照明システムに比べてCO<sub>2</sub>を90%削減できることになるそうです。これからはビル全体が環境に優しく生ま

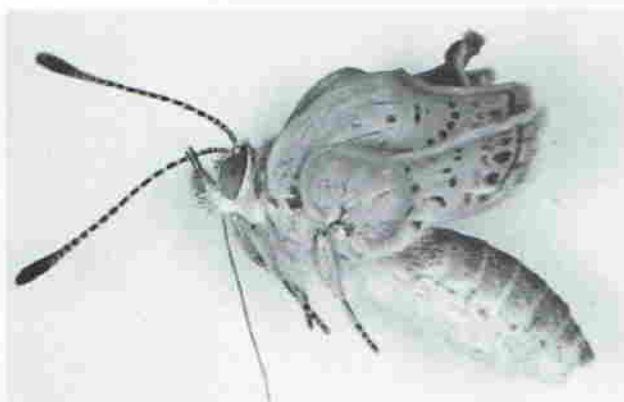


(画像データの出所：清水建設ウェブサイト)

れ変わっていくのかもしれませんが。

次は、あまり良くない話題ですが、福島第一原発事故による放射能の影響で、突然変異した蝶が増えているというニュースです。オンラインで各種科学論文を掲載している「Scientific Reports」で最近発表された研究によると、東日本大震災および福島第一原発事故が発生した約2カ月後に福島第一原発に近い場所で採取した蝶と日本各地で採取した蝶とを比較すると、福島第一原発に近い場所で採取した蝶は突然変異が起こっている数が多いという結果が出たということです。中でも、放射線量の高い地域で

採取した蝶は羽がとても小さく、目に障がいがあるようです。また、これらの蝶を研究所で育ててみると、その次に生まれてきた蝶の突然変異はさらに悪化していて、触覚が変形していたということです。さらに、同原発事故の6ヶ月後に採取した蝶と前述の2ヶ月後のものとを比べてみると、6ヶ月後に採取した蝶の方が突然変異が酷くなっていたそうです。このことから、放射線による突然変異は時間の経過とともに増加し、その程度も悪化するのではないかと考えられます。この傾向については、蝶以外の生物にも当てはまることかもしれないので、注意が必要だと思います。



(画像データの出所：オンラインマガジン「Good」<http://www.good.is/>)

最後はガソリン価格の国別ランキングです。これは金融・経済情報会社のブルームバーグが発表した世界60か国・地域のランキングです。結果を確認する前に、日本のランキングを考えたときは、日本のガソリン価格はとても高いので、上位10か国に入るのではないかと思ったのですが、その結果はやや驚きのものでした。世界で最もガソリン価格の高い国は北欧のノルウェーで、1ガロン(約3.8リットル)当たり\$10.12でした。その後、2位がトルコ(\$9.41)、3位イスラエル(\$9.28)、4位香港(\$8.61)、5位オランダ(\$8.26)、6位デンマーク(\$8.20)、7

位イタリア(\$8.15)、8位スウェーデン(\$8.14)、9位ギリシャ(\$7.92)、10位イギリス(\$7.87)と上位10ヶ国に日本が入っていません。日本が入っていないことも驚きなのですが、北海油田があるイギリスや北欧諸国のガソリン価格が日本よりも高いことが意外でした。その日本のランキングは18位(\$7.15)でした。最近の円高とユーロ安でドル換算のランキングで比べますと、ヨーロッパの国々の方が日本よりも高くなってしまっているのではないかと考えたのですが、同ランキングの別指標の一日当たりの所得に占めるガソリン価格の割合はヨーロッパの国々と日本はほぼ同じでした。因みに米国は49位(\$3.75)と日本の約半値、中国は45位(\$4.89)でした。それでは世界60ヶ国の中で最もガソリン価格の安い国はどこでしょうか？産油国の争いになるのですが、第60位の最もガソリン価格の安い国はベネズエラ(\$0.09)でした。ベネズエラに比べてノルウェーのガソリン価格は約100倍、日本は約80倍しているということが分かります。これだけでも日本やヨーロッパの自動車メーカーが電気自動車やハイブリッドの開発に鎬を削っている理由が分かります。さらに環境問題などがあるので、自動車の技術革新はこれからも相当なペースで進むのではないかと期待しています。

#### 略歴

コーポレートシチズンシップ代表取締役。DWMアセット・マネジメント：DWMインカムファンズ日本代表。明治大学公共政策大学院兼任講師。CFA協会認定証券アナリスト。NPO法人ハズオン東京理事。コロンビア大学ビジネススクール経営学修士およびハーバード大学ケネディ行政大学院行政学修士。クレディ・スイスおよびモルガン・スタンレーにおいて資産運用商品の商品開発を担当。2006年コーポレートシチズンシップを創業。「あなたのTシャツはどこから来たのか？」(ピエトラ・リポリ著 東洋経済新報社)「暴走する資本主義」(余震 そして中間層がいなくなる)(ロバート・ライシュ著 東洋経済新報社)などを翻訳。「アショカDVD・社会起業家シリーズ」監修。